

CFPコミュニケーションプログラム 意見公募結果報告書

報告日		2012年 11月19日			
意見公募実施期間		2012年 10月18日 ~ 2012年 10月 24日			
PCR原案受付番号		PDE-099-02			
製品の属する分類		牛乳【改訂版】			
意見番号	NO.	該当項目	御意見の内容	御意見の理由	御意見に対する考え方
1	附属書A	ライフサイクルフロー図	原材料調達段階の「びん調達プロセス」の下部に、(ガラス製容器PCRに従う)を記入すること。	他のプロセスに合わせ、記入する必要がある。	引用PCRにつきましては、本文にて詳細に記述しています。フロー図につきましては、引用PCRを使用しているプロセスは、廃棄・リサイクル段階にもあり、すべてを記入すればフロー図が煩雑でわかりにくくなります。従いまして、すべてを削除することとします。
2	附属書A	ライフサイクルフロー図	リターナブルびん製造にプラスチック通い箱を想定しているが、それを示していないので、記入すること。また、これはリターナブルびんに限定したことでなく、紙バック容器入り牛乳でも輸送に使用されることから、本文も含めて訂正すること。	附属書D リターナブルびん製造にかかるGHG排出量算定方法に、「リターナブルびん、プラスチック通い箱」と記載がある。プラスチック通い箱を記載していることから、フロー図に記入する必要がある。紙バック容器入り牛乳でも輸送に使用されていることから、本文も含めて訂正することが必要である。	リターナブルびんや紙バック製品で使用するプラスチック製の通い箱は、製造段階で投入・廃棄される副資材にあたります。ただし、ガラスびん180ml用の通い箱について、40個入り、3日間で1回転、5年間という条件で試算すると、CFP値は約0.1g-CO2eとなり、牛乳のライフサイクル全体の0.1%以下になります。紙バック用も同様の計算結果になります。従って、PCR本文ではカットオフの対象とし、附属書Aのライフサイクルフロー図への記入もいたしません。
3	附属書D	リターナブルびん製造に係るGHG排出量算定方法	「リターナブルびん、プラスチック通い箱」と記載があるが、プラスチック通い箱を附属書に記載する以前に、本文に規定すること。また、これは、リターナブルびんに限定したことでなく、紙バック容器入り牛乳でも輸送に使用されることから、本文も含めて訂正すること。	プラスチック通箱を記載しているものであるから、附属書以前の問題として、明確に規定して、用語を使用する必要がある。また、これは、紙バック容器入り牛乳でも輸送に使用されることから、本文も含めて訂正が必要である。	意見番号2を参照下さい。
4	附属書D	リターナブルびん製造に係るGHG排出量算定方法	「3年間の平均負荷率」を規定しているが、数年間で平均化するに留めるべきである。	いわゆる軽量びんの耐久性は従来より3倍高くなったと言われる。今後の技術進歩によって、3年という機関が妥当かは不明であるため、年数の規定は不要である。	CFP算定にあたっての公平を期すため、期間は明確にする必要があります。また、軽量ビンにかかる技術進歩を鑑みると、平均負荷率の期間は長く採るべきではなく、年間の投入量平均を求めるための最低期間とみなせる3年が妥当と考えます。なお、容器包装リサイクル法18条に基づく自主回収申請でも過去3年間のデータが必要です。以上の理由により現行通りといたします。